

目次

目次	1
1.1 ご使用前に感謝を一言	4
1.2 当マニュアルの特徴	5
1.3 安全上のご注意	5
2章 当マザーボードの紹介	6
2.1 マザーボードの外観はどんな様子?	6
2.2 製品仕様	7
2.3 ブロック図	8
3章 ハードウェアのインストール	9
3.1 インストール手順の概要	9
3.2 インストールに必要な情報	10
CPUのインストール	10
CPUファンのインストール	11
CPUおよびシステムファンの接続	12
メモリモジュールのインストール	13
デュアルチャンネルのパフォーマンス最大化	14
IDEおよびフロッピーケーブルの接続	15
フロントパネルケーブルの接続	16
ATX電源ケーブルの接続	17
3.3 他のインストール参照情報	18
CPU電圧およびクロックの設定	18
Serial ATAの接続	19
ご使用のハードディスク設定の調節	20
AGP 8X拡張スロットへの接続	22
IrDAの接続	23
10/100/1000Mbps LANをサポート (iLFRおよびiLシリーズのみ)	24

USB2.0の接続.....	25
1394の接続(i865PEa-7 ILFR/IFおよびi865Ga-7IFのみを対象)	26
高性能7.1チャンネルオーディオ機能	27
フロントオーディオの接続	28
ゲームポートの接続.....	29
COM2の接続 (i865Ga-7IF/IL用).....	30
CD_INの接続	31
ケース解放センサコネクタ	32
S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインタフェース)の接続	33
カラーコード対応後部パネル(i865PEa-7 ILFR/IF用).....	34
カラーコード対応後部パネル(i865Ga-7IF用)	35
カラーコード対応後部パネル(i856Ga-7IL用).....	36
カラーコード対応後部パネル (i800Pa-7I用)	37
LED表示.....	38
3.4 ジャンパ設定.....	39
4章 特別な機能およびユーティリティ	40
RAID (Redundant Array of Independent Disks).....	40
BIOSからのRAID機能有効化	40
PBE – パフォーマンスブースティングエンジン	41
SilentTek – ノイズが消えた!	42
その他の便利な機能.....	45
5章 BIOSの設定	46
紹介	46
Phoenix-Award™ BIOSセットアッププログラムの使用方法	47
BIOSセットアップの起動方法.....	47
Windows環境でのBIOSアップグレード	48
Vivid BIOSテクノロジー.....	50

6章 ドライバのインストール	51
6.1 ドライバのインストール	52
6.2 ユーティリティのインストール	53
7章 トラブルシューティング	54
8章 テクニカルサポート	55
型式名およびBIOSバージョン	56
お買上げのマザーボードの登録	56
テクニカルサポート	57



1.1 ご使用前に感謝を一言

まずはじめに、AOpen製品をお買上げいただきありがとうございます。当マザーボードは当社の強力な製品設計技術およびたゆまぬ品質向上の努力により、ユーザー皆様の個々のニーズに応えるよう設計されています。

当マニュアルでは、マザーボードのインストール方法が紹介されています。今後のご参照にきちんと保管してください。印刷物を紛失しても、当社ウェブサイト <http://www.aopen.com> から更新されたファイルをダウンロードすることも可能です。

それでは、このユーザーフレンドリーなマニュアルをご覧になり、AOpen製品に装備されている強力な全機能をご堪能ください。

AdobeおよびAcrobatのロゴは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonおよびDuronのロゴは、Advanced Micro Devices, Incの登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIおよびPentium 4のロゴは、Intel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴは、nVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴは、米国およびその他の国のMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアル中の製品およびブランド名は全て、識別を目的として使用されており、各社の登録商標です。

当マニュアル中の製品仕様および情報は事前の通知なしに変更されることがあります。当マニュアル内容の変更および改訂の権限はAOpenにあります。マニュアルおよび製品上の誤りや不正確な記述については、AOpenは保証を負いかねます。

この出版物は著作権法により保護されています。全権保留。

AOpen社の正式書面による許可がない限り、この冊子を如何なる形式や方法でもデータベースや記憶媒体に複製することはできません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. All rights reserved.

1.2 当マニュアルの特徴

当マザーボードの役立つ情報を把握し、知っておく必要のある特定の状況を示すため、下記のアイコンがしばしば用いられています：



メモ

組み立ての過程で知っておくべき情報や、役立つヒントが記されています。



警告 / 注意

このマークを見つけたら特に注意してください。インストール途中で起きる間違いや、注意事項が説明されています。



ヒント

このヒントにはインストールを容易にする幾らかの役立つ情報が記されています。

1.3 安全上のご注意



コンポーネント取扱いの前にリストストラップを装着し、システムユニットの金属部につないでください。つなぐ場所は地面または金属面に接する部分でも代用可能です。



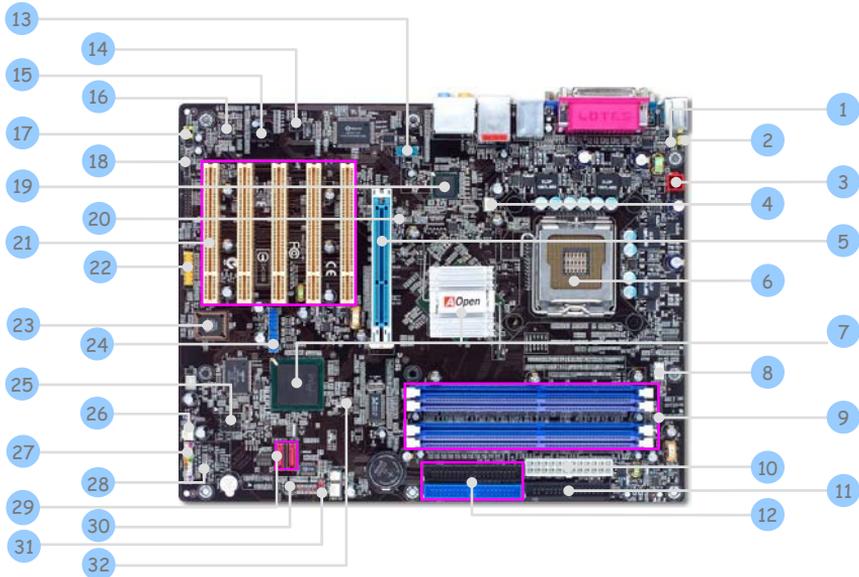
ジャンパ設定の際はいつでも先ず電源プラグを抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントのインストールまたは取り外しの際には、電源を外してマザーボードやその他コンポーネントの損傷を防止してください。

2章 当マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外観はどんな様子?



1. リセッタープルヒューズ	17. フロントオーディオコネクタ
2. JP28 PS2キーボード/マウスウェイクアップ	18. S/PDIFコネクタ
3. 4ピン12V ATX電源コネクタ	19. Intel Gigabit LANチップ(ILFR & ILシリーズ)
4. SYSFAN1コネクタ	20. AGP保護LED
5. AGP 8X拡張スロット	21. 32ビットPCI拡張スロットX 5
6. LGA775 CPU ソケットはIntel FC-LGA4 CPUをサポート	22. ゲームポートコネクタ
7. Intel 865PE/865G/800P/ICH5R/ICH5チップセット	23. ダイハードBIOS
8. CPUFANコネクタ	24. USB 2.0コネクタX 2
9. 184ピンDIMMs X 4 (ILFR/IL/IFシリーズ用) 184ピンDIMMs X 2 (i800Pa-7I用)	25. IEEE1394コネクタX 2 (ILFR & ILシリーズ)
10. ATX電源コネクタ	26. SYSFAN2コネクタ
11. FDDコネクタ	27. フロントパネルコネクタ
12. IDEコネクタx 2	28. STBY LED
13. COM2コネクタ (i865Gaシリーズ)	29. Serial ATA ポートX 2
14. IRDAコネクタ	30. ケース開放センサコネクタ
15. CD_INコネクタ	31. JP14 CMOSデータクリア用ジャンパ
16. AC'97 CODEC	32. BOOT LED

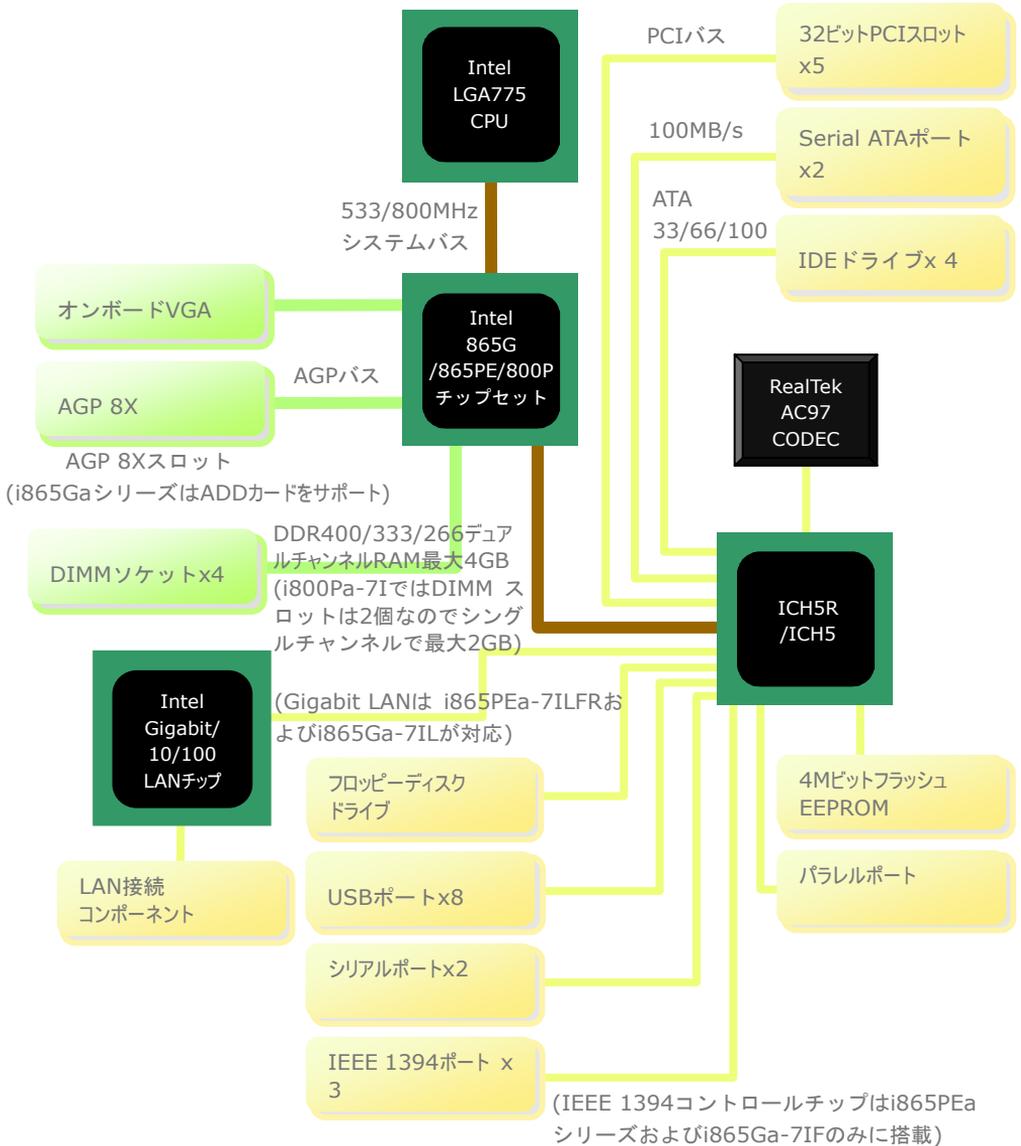
2.2 製品仕様

マザーボードの主要機能は下記の通りです。

モデル名	I865PEa-7 ILFR/IF	I865Ga-7 IL/IF	I800Pa-7I
CPU	Intel LGA775 CPU Socket T 533/800MHz	Intel LGA775 CPU Socket T 533/800MHz	Intel LGA775 CPU Socket T 533/800MHz
チップセット	Intel 865PE/ICH5R (ILFR) Intel 865PE/ICH5 (IF)	Intel 865G/ICH5	Intel 800P/ICH5
メインメモリ	デュアルチャンネルモードDDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 4 DIMMタイプ: 128/256/512MB & 1GB 最大メモリ : 4GB	デュアルチャンネルモードDDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 4 DIMMタイプ: 128/256/512MB & 1GB 最大メモリ : 4GB	シングルチャンネルモードDDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 2 DIMMタイプ: 128/256/512MB & 1GB 最大メモリ : 2GB
グラフィックス	8X AGPスロット	チップセットにVGA Engine搭載 8X AGPスロット ADDカードをサポート	8x AGPスロット
IDEおよびSATA	ATA100およびSerial ATA コントローラ搭載 [ICH5RはRAID 0,1をサポート] 最大ディスク容量: 144,000,000GB [48 ビットLBA仕様の場合]	ATA100およびSerial ATA コントローラ搭載 最大ディスク容量: 144,000,000GB [48 ビットLBA仕様の場合]	ATA100およびSerial ATA コントローラ搭載 最大ディスク容量: 144,000,000GB [48 ビットLBA仕様の場合]
LAN	Intel Gigabit LANコントローラ(7ILFR) Intel PHY 82562EZ (7IF)	Intel Gigabit LANコントローラ(7IL) Intel PHY 82562EZ (7IF)	Intel PHY 82562EZ
サウンド	オンボードRealtek AC'97 CODEC、Dolby Digitalシステムおよび7.1チャンネルをサポート	オンボードRealtek AC'97 CODEC、Dolby Digitalシステムおよび7.1チャンネルをサポート	オンボードRealtek AC'97 CODEC、Dolby Digitalシステムおよび7.1チャンネルをサポート
USB	チップセットに内蔵 USB2.0 x 8	チップセットに内蔵 USB2.0 x 8	チップセットに内蔵 USB2.0 x 8
IEEE1394	Agere 1394 コントロールチップ内蔵	Agere 1394 コントロールチップ内蔵(7IF)	
スロット	AGP x 1 PCI x 5	AGP x 1 PCI x 5	AGP x 1 PCI x 5
後部パネル I/O	PS/2キーボードx 1 PS/2マウスx 1 USBポートx 4, LANポートx1 COMポートx 2 1394ポートx 1 プリンタポートx 1 スピーカー出力x 1 ライン入力x 1,マイク入力x 1 リアSUR x 1, サイド, SUR センター/サブウーファーx 1	PS/2 Keyboard x 1 PS/2 Mouse x 1 USBポートx4, LANポートx1 VGAポートx1,COMポートx1 1394ポートx 1 (7IF) プリンタポートx 1 Speaker_Out x 1 ライン入力x 1,マイク入力x1 リアSUR x 1, サイド, SUR センター/サブウーファーx 1	PS/2 Keyboard x 1 PS/2 Mouse x 1 USBポートx4, LANポートx1 COMポートx 2 プリンタポートx 1 スピーカー出力x 1 ライン入力x1,マイク入力x 1 リアSUR x 1, サイド, SUR センター/サブウーファーx 1
オンボードコネクタ	フロントパネルx 1 / フロントオーディオx1 / CPU FAN x 1 / システムFAN x 1 / ケースFAN x 1 電源FAN x 1 / 電源温度センサコネクタx 1 / ケース開放センサコネクタx 1 CD_IN x 1 / IrDA x 1 / ゲームコネクタx 1 / USBポートx 4 / S/PDIFコネクタ COM2 x 1 (i865Ga-7IL/IF用) IEEE 1394 x 2 (i865PEa-7ILFR/IFおよびi865Ga-7IF用)		
BIOS	Award PnP 4MビットフラッシュROM BIOS	Award PnP 4MビットフラッシュROM BIOS	Award PnP 4MビットフラッシュROM BIOS
ボード寸法	305 mm x 244 mm	305 mm x 244 mm	305 mm x 244 mm



2.3 ブロック図



3章 ハードウェアのインストール

3.1 インストール手順の概要



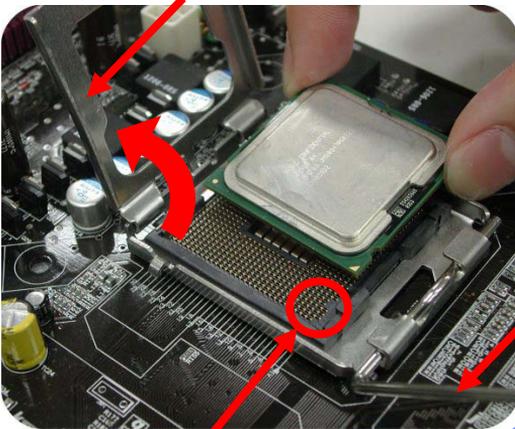
3.2 インストールに必要な情報

CPUのインストール

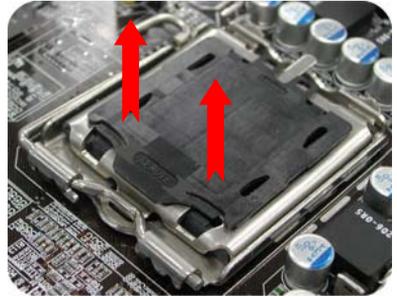
このソケットは、Intelの開発した最新のCPUパッケージであるFC-LGA4パッケージCPUに対応しています。他の規格のCPUパッケージは挿せません。CPUソケットレバーを上げプレートが上がります。

1. CPUソケットプレートのプラスチックカバーを外します。
2. ソケットの1番ピンを確かめCPU上部の金色の矢印を確認します。1番ピンと矢印を合わせます。これでCPUをソケットに差しします。
3. CPUソケットプレートおよびレバーを戻すと、CPU のインストールは完了です。

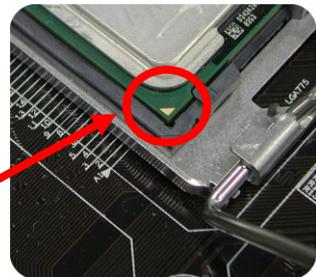
CPUソケットプレート



ソケット1番ピン



CPUソケットレバー



金色の矢印



警告： CPUソケット1番ピンとCPUの金色の矢印を合わせないと、CPUが損傷する可能性があります。またCPUインストール時にはCPUのソケットピンに触れないでください。



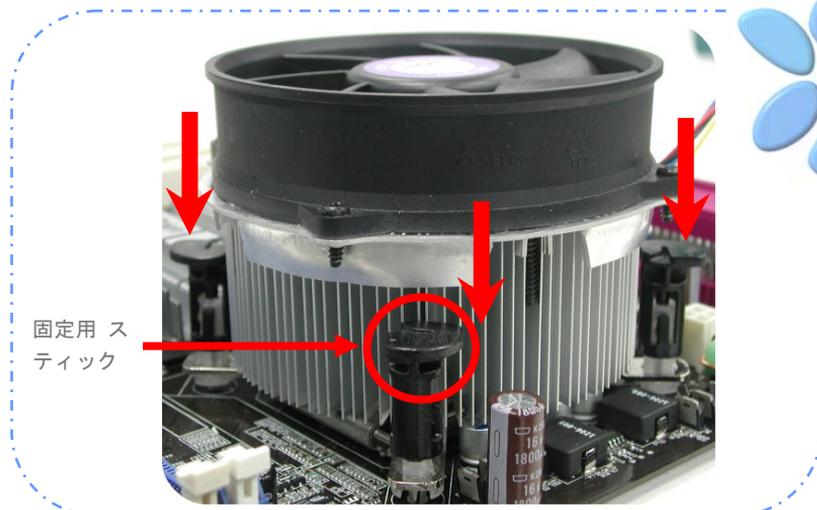
メモ： Prescott CPUの過熱を防止するため、サーマルペーストの使用が Intelから強く勧められています。

CPUファンのインストール

1. CPUファンは、4本のスティックを取付け穴に合わせて静かにCPUソケット上に置きます。



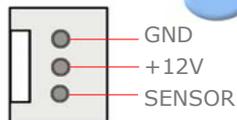
2. 4本のスティックを1本ずつ取付け穴に挿します。スティックが穴に着実に固定されていることを確かめてください。



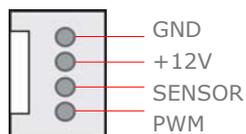
メモ: 写真はお買上げの製品と異なる場合があります。

CPUおよびシステムファンの接続

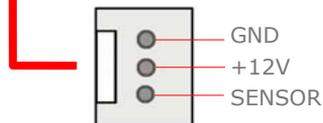
CPUファンケーブルは、4ピンのCPUFANコネクタに接続します。ケースファンがある場合は、これをSYSFAN1またはSYSFAN2コネクタに接続できます。



SYSFAN1コネクタ



CPUFANコネクタ



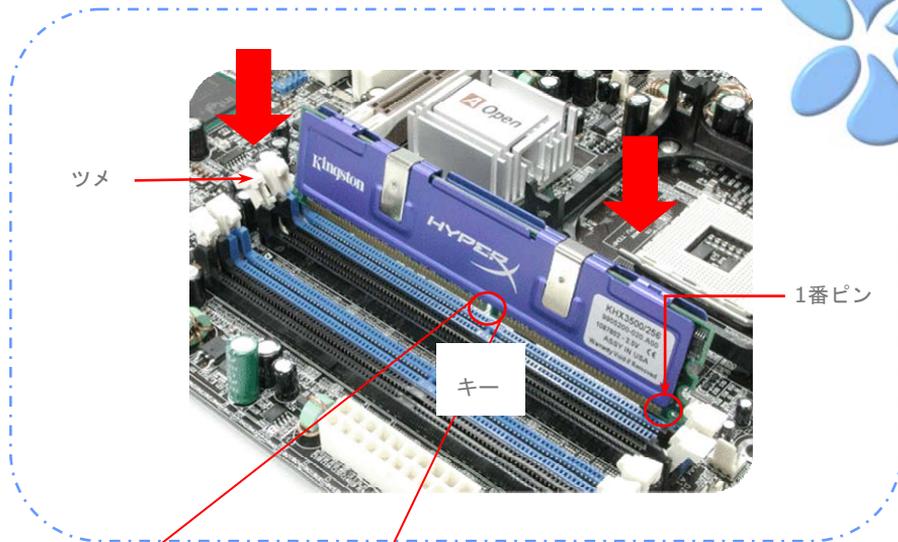
SYSFAN2コネクタ



メモ: CPUファンによってはセンサピンのない物もあります。この場合ファンのモニタ機能は使用できません。

メモリモジュールのインストール

DIMMスロットはネイビーブルーとエレクトロニックブルーで容易に判別できます。モジュールを両手でDIMMスロットにまっすぐ静かに、きちんと止まるまで挿してください。



メモ: DIMMがスロット底部に達するとDIMMスロットのツメが起きてDIMMをホールドします。

デュアルチャンネルのパフォーマンス最大化

デュアルチャンネルのパフォーマンスを最大にするには、DIMMの規格値が下記の条件を満たしている必要があります。

各チャンネルのDIMM規格値の一致

- 同一のデンシティ(128MB~1GB)
- 同一のDRAMバス幅 (x8 or x16)
- 片面または両面のいずれか



メモ: 異なるチップおよびデンシティのメモリモジュールの使用により、システムが不安定になる場合があります。

メモリモジュールの装着には下表をご参照ください。

DIMM A1	DIMM A2	DIMM B1	DIMM B2	デュアルチャンネル
○		○		使用可能
	○		○	使用可能
○	○	○	○	使用可能

デュアルチャンネルモードが問題なく使用可能になると、POST画面には“Dual Channel Mode Enabled”と表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD

Feb.02.2004 AOpen Inc.

Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Hyper-Threading Technology Enabled
Dual Channel Mode Enabled
CPU 200MHz / 200MHz Default / Setting
DRAM 400MHz / 400MHz AUTO / AUTO
AGP 66.67MHz / 66.67MHz 1.50 V / 1.50 V
PCI 33.33MHz / 33.33MHz 3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```

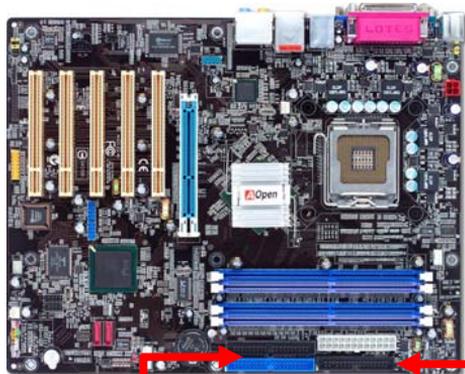


<http://www.aopen.com.tw>

Press DEL to enter SETUP
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00

IDEおよびフロッピーケーブルの接続

34ピンフロッピーケーブルおよび40ピン、80芯線IDEケーブルをフロッピーコネクタ FDDおよびIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きにご注意ください。向きを間違えるとシステムの故障の原因となります。



セカンダリ
スレーブ(4th)

セカンダリ
マスタ(3rd)

IDE 2 (セカンダリ)

FDDコネクタ

1番ピン

1番ピン

IDE 1 (プライマリ)

プライマリ
スレーブ(2nd)

プライマリ
マスタ(1st)

ATA 66/100 IDE



フロントパネルケーブルの接続

電源LED、スピーカー、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに挿します。BIOSセットアップで“Suspend Mode”の項目をオンにした場合は、ACPIおよび電源LEDがサスペンドモード中に点滅します。

お持ちのATXの筐体で電源スイッチのケーブルを確認します。これは前部パネルから出ている2-ピンメスコネクタです。このコネクタを **SPWR** と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続します。

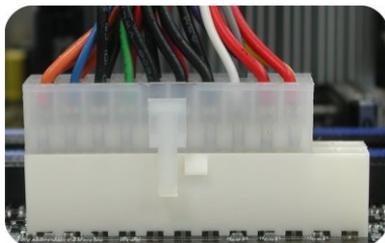
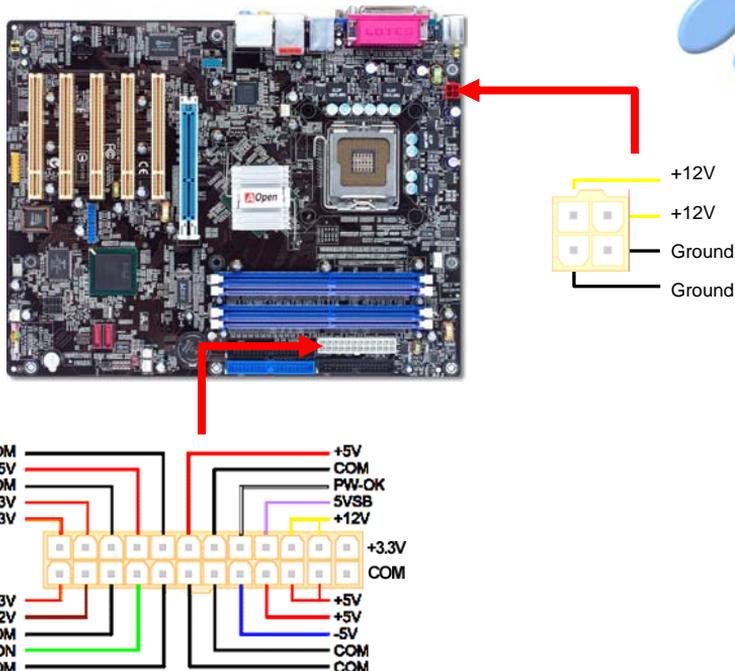


1		
NC		Power Switch
NC		GND
+5V		Power LED-
HDD LED		GND
HDD LED		Power LED+
+5V		NC
+5V		GND
GND		GND
NC		RESET
SPEAKER		GND

Front Panel Connector

ATX電源ケーブルの接続

当マザーボードには下図のように20ピンおよび4ピンのATX電源コネクタが使用されています。差し込む際は向きにご注意ください。20ピンATX電源コネクタより先に4ピンコネクタを接続することを強くお勧めします。



メモ: 24ピンATX電源ケーブルがない場合は、図のように20ピンATX電源ケーブルをATX電源コネクタに左寄りに挿してください。

3.3 他のインストール参照情報

CPU電圧およびクロックの設定

CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電圧ID (VID)機能で電源オン時にCPU電圧の自動検出が0.8375V~1.6Vの範囲で可能です。それでCPUコア電圧の設定は不要です。

CPUクロックの設定

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの1MHzステップCPUオーバークロック機能から行います。**CPUコアクロック = CPU FSBクロック x CPU レシオ**。ただし、現在市場に流通するCPUは"倍率固定"、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。

BIOS Setup > Frequency / Voltage Control > CPU Speed Setup

(オーバークロックは自己責任の元行って頂きますようお願い致します。)

CPUレシオ	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (マニュアル調節)	FSB = 100MHz-400MHz、1MHzステップCPUオーバークロック機能による

プロセッサ番号	プロセッサクロック	FSB	CPUレシオ	キャッシュ
5シリーズ				
580	4.00G	800MHZ	20x	1MB L2
570	3.80G	800MHZ	19x	1MB L2
560	3.60G	800MHZ	18x	1MB L2
550	3.40G	800MHZ	17x	1MB L2
540	3.20G	800MHZ	16x	1MB L2
530	3.00G	800MHZ	15x	1MB L2
520	2.80G	800MHZ	14x	1MB L2
3シリーズ				
350	3.20G	533MHZ	24x	256K L2
345	3.06G	533MHZ	23x	256K L2
340	2.93G	533MHZ	22x	256K L2
335	2.80G	533MHZ	21x	256K L2



メモ: CPUファンによってはセンサのない物もあります。この場合ファンのモニタ機能は使用できません。

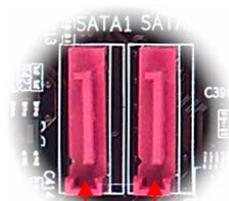
メモ: CPUクロックはさらに高速になっています。当インストールガイドを入手された時点でも、より高速のCPUが市場に出回っているかもしれません。この一覧表はユーザー皆様の参照用です。



警告: Intel 865PE/865G/800Pチップセットは最大800MHz (200MHz*4)システムクロックをサポートします。より高いクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

Serial ATAの接続

Serial ATAディスクを接続するには、7ピンSerial ATAケーブルが必要です。Serial ATAケーブルでマザーボードのSerial ATAヘッダとディスクをつなぎます。従来のディスクと同様、電源ケーブルも接続する必要があります。ここでジャンパ設定は不要であることにご注意ください。ディスクをマスタやスレーブにジャンパ設定する必要はありません。Serial ATAハードディスクをSerial ATAポートにインストールする際は、ポート0 (SATA1) にインストールされたディスクが自動的に起動用ディスクに設定されます。ここでホットプラグ機能はサポートされていない点にご注意ください。



SATA1 SATA2

ご使用のハードディスク設定の調節

従来の2組の平行IDEに加え、当マザーボードは最新のserial ATAハードディスクをサポートしています。serial ATAハードディスクをインストール後、オペレーティングシステムからディスクが検出されない場合は、BIOS設定に問題がある可能性が高いです。ただBIOS設定を調節するだけで正しく動作できるようになります。

ハードディスクを正しくインストールした後、直接BIOS設定画面から調節を行います。**“Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA”**から望むモードを指定すれば大丈夫です。本来の設定を変える必要がなければ、デフォルト設定Autoにします。

The image displays three overlapping screenshots of the Phoenix AwardBIOS CMOS Setup Utility. The top screenshot shows the main menu with 'Integrated Peripherals' highlighted. The middle screenshot shows the 'Integrated Peripherals' submenu with 'OnChip IDE Device' selected. The bottom screenshot shows the 'OnChip IDE Device' submenu with 'On-Chip Serial ATA' selected and its value set to 'Auto'.

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility

- ▶ Standard CMOS Features
- ▶ Advanced BIOS Features
- ▶ Advanced Chipset Features
- ▶ **Integrated Peripherals**
- ▶ Power
- ▶ PnP/PS
- ▶ Silen
- ▶ Frequ

Load Setup Defaults
Load Turbo Defaults
Set Password
Save & Exit Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Integrated Peripherals

- ▶ OnChip IDE Device **Press Enter**
- ▶ Onboard Device **Press Enter**
- ▶ SuperIO Device **Press Enter**

Item Help
Menu Level ▶

Esc : Quit
F10 : Save

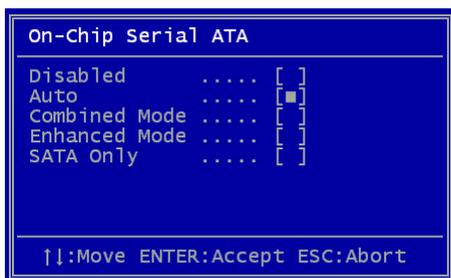
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
OnChip IDE Device

IDE HDD Block Mode	Enabled	Item Help
On-chip Primary PCI IDE	Enabled	Menu Level ▶▶
IDE Primary Master PIO	Auto	[Disabled]: Disabled SATA controller.
IDE Primary Slave PIO	Auto	[Auto]: Auto arrange by BIOS.
IDE Primary Master UDMA	Auto	[Combined Mode]: PATA and SATA are combined, Max. of 2 IDE drives in each channel.
IDE Primary Slave UDMA	Auto	[Enhanced Mode]: Enable both SATA and PATA. Max. of 6 IDE drives are supported.
On-chip Secondary PCI IDE	Enabled	[SATA only]: SATA is operating in legacy mode.
IDE Secondary Master PIO	Auto	
IDE Secondary Slave PIO	Auto	
IDE Secondary Master UDMA	Auto	
IDE Secondary Slave UDMA	Auto	

*** On-Chip Serial ATA Setting ***
x SATA Mode IDE
On-Chip Serial ATA Auto
x Serial ATA Port0 Mode SATA0 master
Serial ATA Port1 Mode SATA1 master

↑↓←→: Move F2: Item Help

||←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F2: Item Help F5: Previous Values F6: Setup Defaults F7: Turbo Defaults



デフォルト設定から変更する場合は、Enterを押すと選択リストが表示されます。

Disabled: ご使用のシステムにインストールされているのが従来のIDEハードディスクのみである場合に選択できます。この項目を無効にすると、POST中のSerial ATAハードディスク検出を行いませんから理論上の起動時間は多少短縮されます。ただし、後ほどSerial ATAハードディスクをインストールした場合

には設定を変更するのを忘れなく。

Auto: これがマザーボードの工場デフォルト設定値です。ご使用のシステムが正常に動作している場合は、基本的には変更は不要です。システムはIDE1の第1ディスクを起動デバイスとして認識します。

メモ: Windows98Se/MEをご使用で、インストール可能数限界の6台のハードディスクが装着されている場合、Autoモードは正しく作動しません。これはWindows98Se/Me環境では拡張モードをアクティブにして全てのハードディスク検出が行えないことによりです。

Combined Mode: 従来のIDEハードディスクとSerial ATAハードディスクを同時にインストールしている場合は、このモードを選択できます。このモードでは、任意のIDEハードディスクまたはSerial ATAハードディスクを起動デバイスに設定できます。ただしここで注意すべきなのは、Serial ATAはIDEとマッピング関係にある点、すなわちこれが1つのIDEチャンネルを占め、残るのはIDEの1チャンネルとなることです。

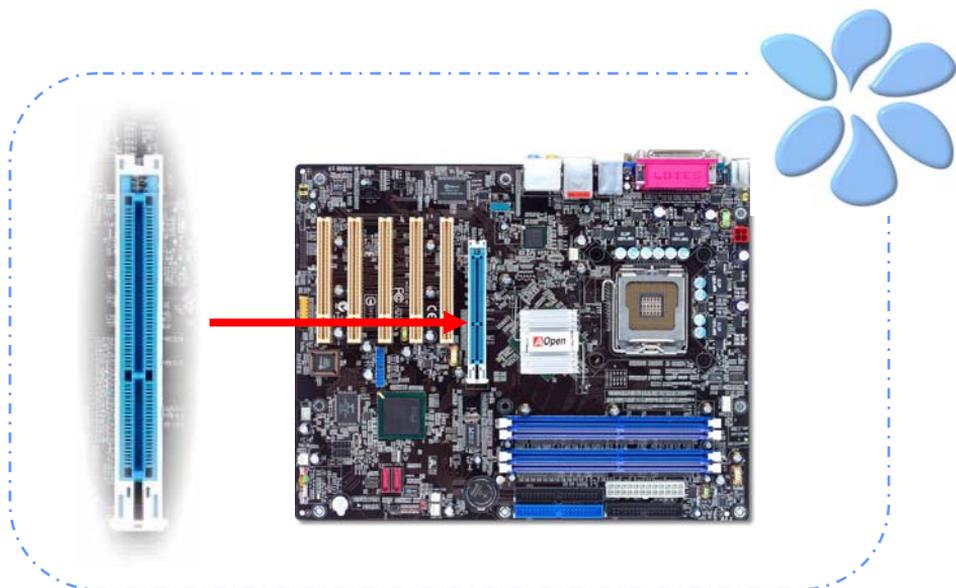
Enhanced Mode: 最新のオペレーティングシステム(例えばWindows XP, Windows.NET Server)をご使用であれば、Enhanced Modeの使用を強くお勧めいたします。このモードでは6台のデバイス全部(従来のIDE x 4, Serial ATA x 2)を検出し、完璧に動作します。ただし、このモードは従来のIDEが起動デバイスに設定される点にご注意ください。

メモ: 当社ラボの実用テストでは、このモードをWindows2000オペレーティングシステム環境で使用しても特に目立った不具合やトラブルは生じませんでした。ただしこれはIntel推奨ではありません。

SATA Only: Serial ATAハードディスクのみがインストールされている場合は、このモードを選択できます。またこのモードでは最初に起動するデバイスをPort0 (SerialATA1)またはPort1 (SerialATA2)のいずれにでも設定できます。

AGP 8X拡張スロットへの接続

当マザーボード上には最新のAGP規格であるAGP 8Xスロット1個が搭載され、スカイブルーに色分けされています。AGP 8Xは高性能3Dグラフィックス用に設計されたバスインターフェースです。AGPは66MHzクロックの立ち上がりと下降部の双方を利用し、4X AGPの場合、転送速度は $66\text{MHz} \times 4\text{バイト} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ です。AGPは現在AGP 8xモードに移行中で転送速度は $66\text{MHz} \times 4\text{バイト} \times 8 = 2.1\text{GB/s}$ です。i865Ga-775ILFR/IFでは、AGPスロットはAGPまたはマルチプレクストIntel DVO出力を装着されたカードの種類でAGPまたはADD (AGP Digital Display)カードといった風に自動検出します。このスロットにADDカードを装着すると、Multiplexed Intel DVO出力によりデジタル表示やTV出力機能における高速デジタル接続が実現されます。



警告: SATA装置を接続している場合はAGP/PCIの電圧・クロックの調節は行わないでください。これは、AGP/PCIの電圧・クロックの調節により、SATAが100MHzを保持できず、システムが不安定になるためです。

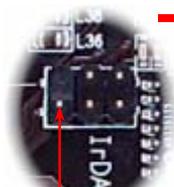


警告: 3.3V AGPカードは、当マザーボードのIntel 865PE / 865G / 800Pチップセットではご使用いただけません。

IrDAの接続

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールの設定後、LaplinkやWindowsの直接ケーブル接続等のアプリケーションソフトウェアと併用することで、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDAデバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2m以内)および ASK-IR (56Kbps)をサポートします。

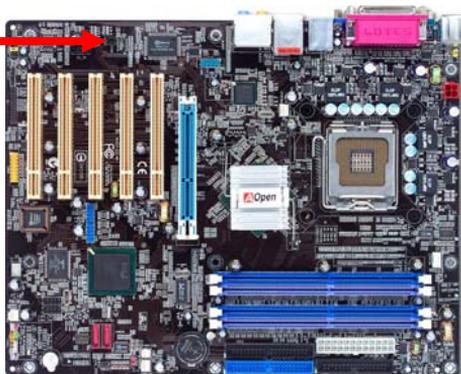
IrDAコネクタに赤外線モジュールを接続し、BIOSセットアップのUART Modeで正しく設定します。IrDAモジュールを挿す際は方向にご注意ください。



1番ピン

	KEY	GND	IR_RX
1	○	●	●
	●	●	●

IrDA Connector



10/100/1000Mbps LANをサポート (ILFRおよびILシリーズのみ)

オンボードのGigabit LANコントローラにより、i865PEa-7ILFRおよびi865Ga-ILマザーボードでは10/100/1000Mbpsイーサネットがオフィスやホームユースで利用可能です。イーサネット用RJ45コネクタはUSBコネクタ上部に位置します。右側のLEDはリンクモード表示で、ネットワークにリンクしていると黄色に点滅します。左側のLEDは接続速度モードで、100Mbps LAN接続中はグリーンに点灯します。(10Mbps接続では点灯しません)。一方ギガビットLAN接続ではオレンジに点灯します。この機能のオンオフはBIOSから簡単に設定できます。LAN ウェイクアップ機能を有効にするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションから“Wake on PCI Card”の項目を有効にします。



転送速度 (左)

緑 100Mbps

オレンジ Gigabitモード

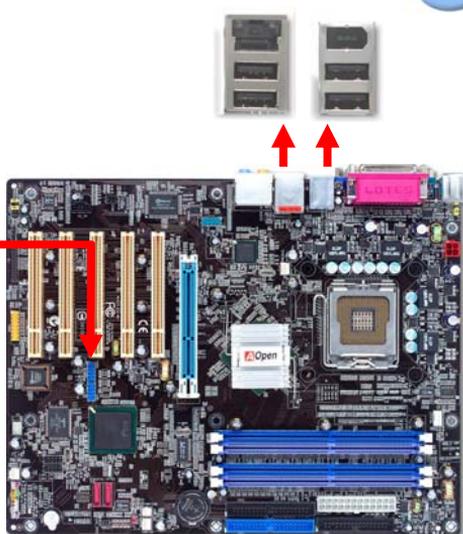
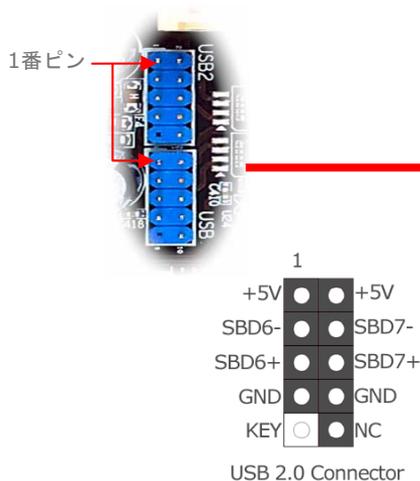


リンク表示 (右)

黄色

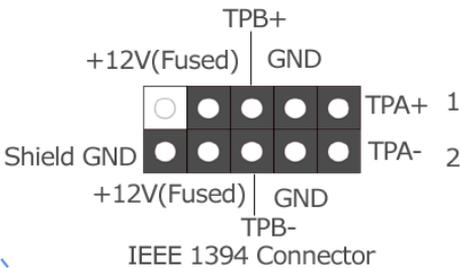
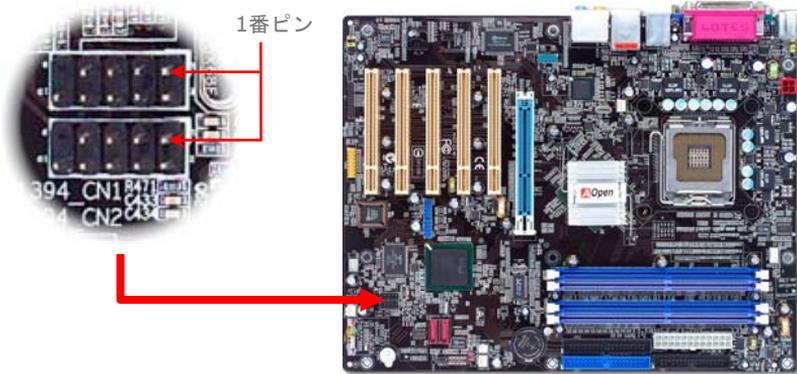
USB2.0の接続

当マザーボードには8個のUSBポートが装備され、マウス、キーボード、モデム、プリンタなどのUSB機器が接続できます。後部パネルには4個のポートがあります。適切なケーブルにより、フロントUSB コネクタからUSBモジュールまたはケースのフロントパネルに接続します。



1394の接続(i865PEa-7 ILFR/IFおよびi865Ga-7IFのみを対象)

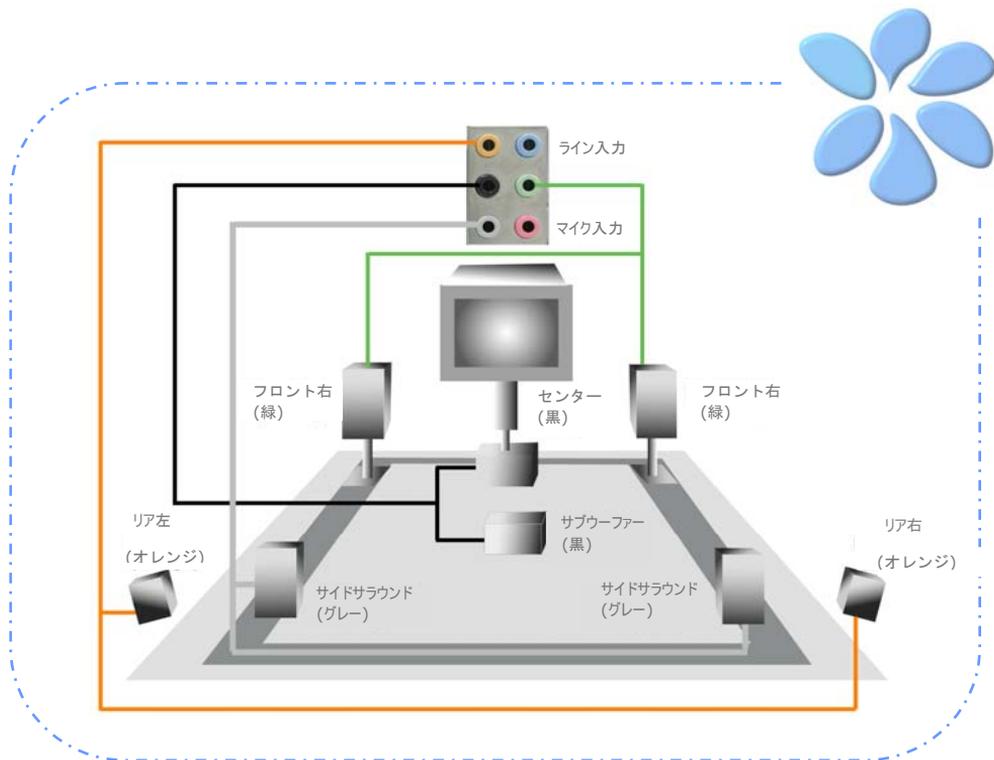
オンボードのIEEE1394 チップ(AGERE 1394)により、データ転送速度は最大400Mb/sを実現します。このためIEEE 1394インターフェースはデジタルカメラ、スキャナー、その他IEEE 1394装置など高速データ転送性能を必要とするデバイスの接続に使用できます。IEEE1394デバイスへの接続には適切なケーブルをご使用ください。



警告：IEEE 1394ヘッダとIEEE1394ブラケットケーブルの間はホットプラグに対応しておりません。IEEE1394ポートと各機器の間は対応しております。

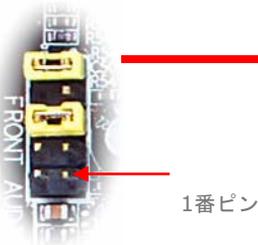
高性能7.1チャンネルオーディオ機能

当マザーボードは高性能オーディオ機能である最新の7.1チャンネルをサポートするALC850 CODECを装備し、新たなオーディオ体験へご案内します。当マザーボードには下図のように7.1チャンネルポートが装備されています。下図は7.1チャンネルサウンドトラック使用時の標準的なスピーカー配置を示しています。フロントスピーカー端子は後部パネルの緑の“スピーカー出力”ポートに、リアサラウンドスピーカーはオレンジのポート、サイドサラウンドスピーカーはグレーのポート、センターとサブウーファースピーカーは黒いポートに接続します。



フロントオーディオの接続

筐体のフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。なお、ケーブルを接続する前にフロントパネルオーディオコネクタからジャンパキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合は黄色いキャップを外さないでください。



1番ピン



AUD_RET_L	●	●	AUD_FPOUT_L
KEY	○	●	NC
AUD_RET_R	●	●	AUD_FPOUT_R
AUD_VCC	●	●	AUD_MIC_BIAS
AUD_GND	●	●	AUD_MIC

1

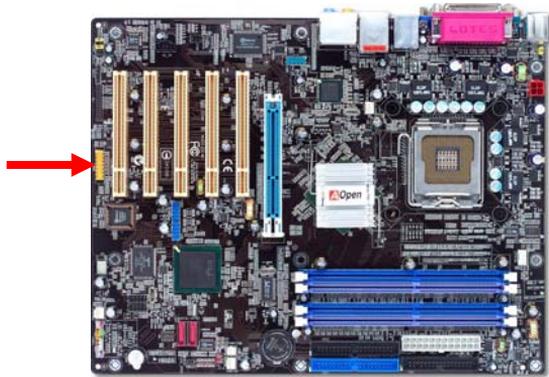
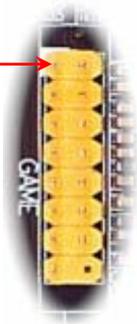
Front Audio Connector

ゲームポートの接続

当マザーボードにはゲームポート(ジョイスティック-MIDI)が用意され、MIDI装置やジョイスティックが接続できます。この機能を利用するにはジョイスティックモジュールをお買い求めの上、ケーブルでマザーボードのポートに接続する必要があります。



1番ピン



	1	2	
+5V	●	●	+5V
JAB1	●	●	JBB1
JACX	●	●	JBCX
GND	●	●	MIDI_TXD
GND	●	●	JBCY
JACY	●	●	JBB2
JAB2	●	●	MIDI_RXD
+5V	●	○	KEY
	15	16	

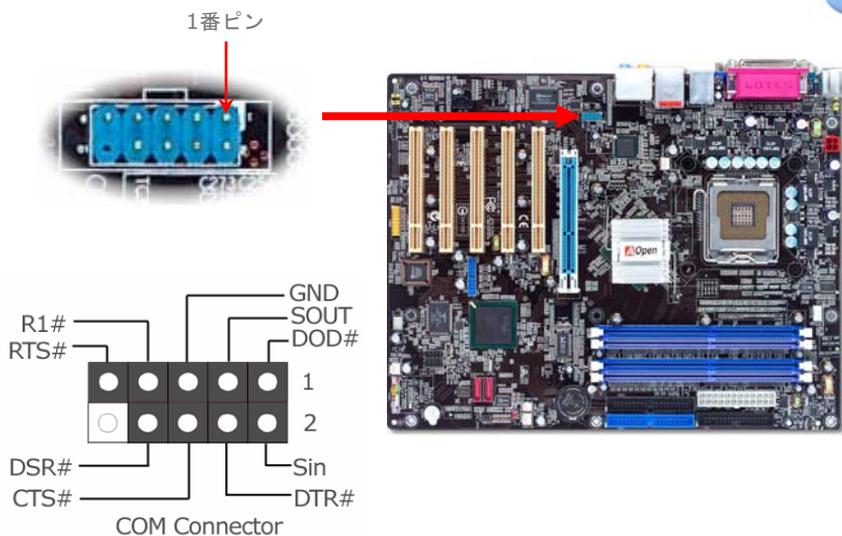
Game Port Connector



(別売オプション)

COM2の接続 (i865Ga-7IF/IL用)

i865Ga-7IF/ILには2つのシリアルポートが装備されています。1つは後部パネル、他方はオンボードのコネクタに装備されています。これらは適切なケーブルでケースの後部パネルに接続します。



CD_INの接続

このコネクタはCDROMまたはDVDドライブからのCDオーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。



CD-IN Connector

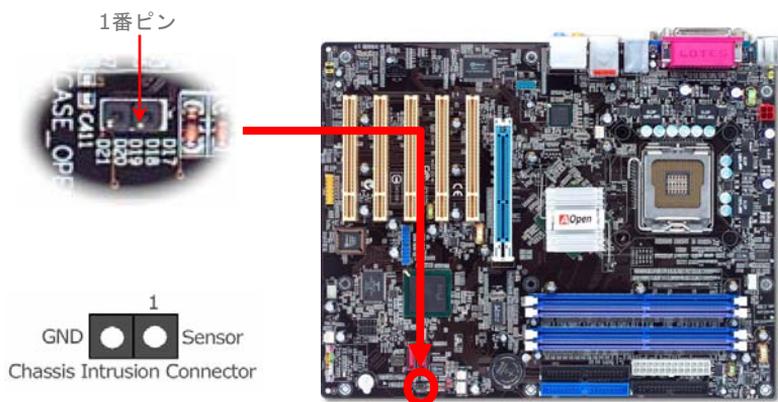


R GND GND L



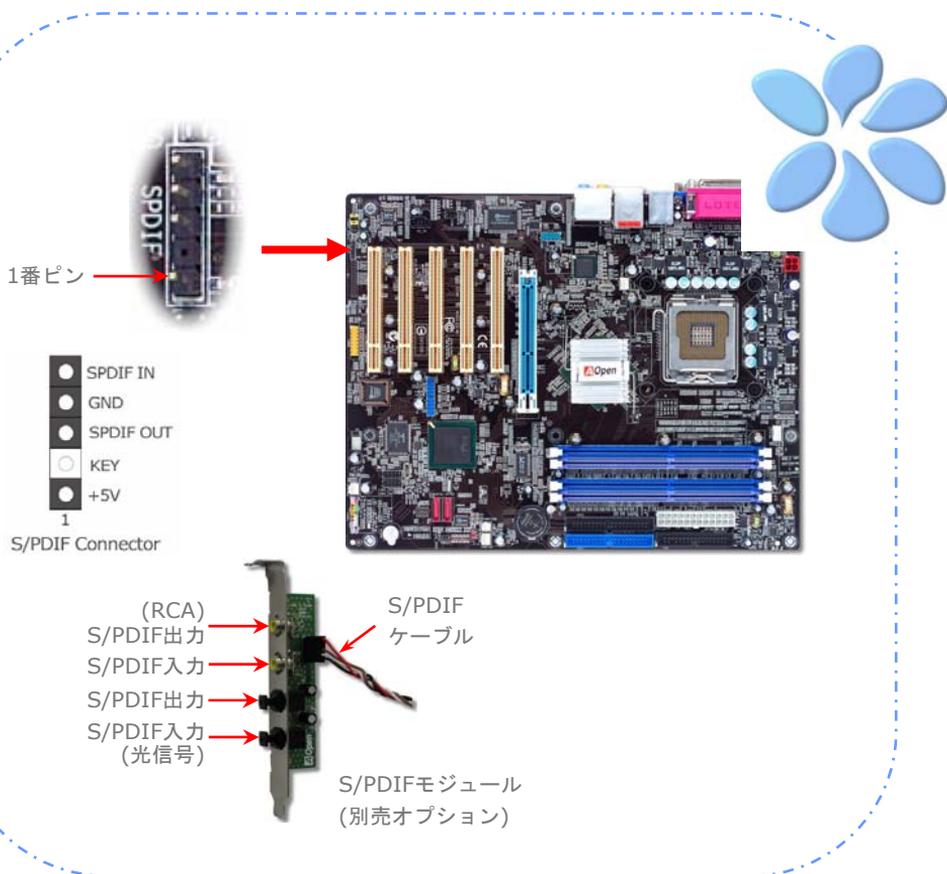
ケース解放センサコネクタ

“CASE OPEN”ヘッダーはケース開放センサ機能を提供します。この機能を利用するにはシステムBIOSで設定をオンにし、このヘッダーをケース内に設置したセンサに接続する必要があります。この場合、センサが光やケース開放を検知するとシステムはビープ音で知らせます。ただし、この便利な機能は新型のケースを対象としており、センサの購入・設置が必要となる場合がある点にご注意ください。



S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインタフェース)の接続

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインタフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わるデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。専用オーディオケーブルにより、SPDIFコネクタと別のS/PDIFデジタル出力をサポートするS/PDIFオーディオモジュールを接続します。図示されているように通常S/PDIF出力は2つあり、一方は大部分の消費型オーディオ製品に対応するRCAコネクタ、他方はより高品質のオーディオに対応する光コネクタです。出力と同様、モジュールの入カコネクタにRCAまたは光信号オーディオ製品を接続して、お持ちのコンピュータからサウンドを出すことも可能です。ただし、当機能の長所を最大限活かすにはSPDIFデジタル入出力をSPDIFデジタル入出力対応スピーカー/アンプ/デコーダに接続する必要があります。



カラーコード対応後部パネル(i865PEa-7 ILFR/IF用)

オンボードのI/OデバイスはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、COM2ポート、プリンタ、USB、1394、AC'97サウンドおよびゲームポートです。下図はケースの後部パネルから見た状態です。



PS/2キーボード:

PS/2プラグ使用の標準キーボード用

PS/2マウス:

PS/2プラグ使用のPC-マウス用

パラレルポート:

SPP/ECP/EPPプリンタ接続用

COM1ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

COM2ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

IEEE 1394ポート:

1394装置の接続用。

RJ-45 LANポート:

ホームまたはオフィスでのイーサネット接続用

USBポート:

USB機器の接続用

リアSUR:

リアサラウンドスピーカー用

ライン入力:

CD/テーププレーヤー等からの信号ソースから

センター/サブウーファー:

センターおよびサブウーファースピーカー用

スピーカー出力:

外部スピーカー、イヤホン、アンプへ

サイドSUR:

サイドサラウンドスピーカー用

マイク入力:

マイクロホン用。

カラーコード対応後部パネル(i865Ga-7IF用)

オンボードのI/OデバイスはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、VGAポート、プリンタ、USB、1394、AC'97サウンドおよびゲームポートです。下図はケースの後部パネルから見た状態です。



PS/2キーボード:

PS/2プラグ使用の標準キーボード用

PS/2マウス:

PS/2プラグ使用のPC-マウス用。

パラレルポート:

SPP/ECP/EPPプリンタ接続用

COM1ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

VGAコネクタ:

PCモニタ接続用。

IEEE 1394ポート:

1394装置の接続用

RJ-45 LANポート:

ホームまたはオフィスでのイーサネット接続用

USBポート:

USB機器の接続用

リアSUR:

リアサラウンドスピーカー用

ライン入力:

CD/テーププレーヤー等からの信号ソースから

センター/サブウーファー:

センターおよびサブウーファースピーカー用

スピーカー出力:

外部スピーカー、イヤホン、アンプへ

サイドSUR:

サイドサラウンドスピーカー用

マイク入力:

マイクロホン用。

カラーコード対応後部パネル(i856Ga-7IL用)

オンボードのI/OデバイスはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、VGAポート、プリンタ、USB、AC'97サウンドおよびゲームポートです。下図はケースの後部パネルから見た状態です。



PS/2キーボード:

PS/2プラグ使用の標準キーボード用

PS/2マウス:

PS/2プラグ使用のPC-マウス用。

パラレルポート:

SPP/ECP/EPPプリンタ接続用

COM1ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

VGAコネクタ:

PCモニター接続用。

RJ-45 LANポート:

ホームまたはオフィスでのイーサネット接続用

USBポート:

USB機器の接続用

リアSUR:

リアサラウンドスピーカー用

ライン入力:

CD/テーププレーヤー等からの信号ソースから

センター/サブウーファー:

センターおよびサブウーファースピーカー用

スピーカー出力:

外部スピーカー、イヤホン、アンプへ

サイドSUR:

サイドサラウンドスピーカー用

マイク入力:

マイクロホン用

カラーコード対応後部パネル (i800Pa-7I用)

オンボードのI/OデバイスはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、COM2ポート、プリンタ、USB、AC'97サウンドおよびゲームポートです。下図はケースの後部パネルから見た状態です。



PS/2キーボード:

PS/2プラグ使用の標準キーボード用

PS/2マウス:

PS/2プラグ使用のPC-マウス用

パラレルポート:

SPP/ECP/EPPプリンタ接続用

COM1ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

COM2ポート:

ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアル装置接続用

RJ-45 LANポート:

ホームまたはオフィスでのイーサネット接続用

USBポート:

USB機器の接続用

リアSUR:

リアサラウンドスピーカー用

ライン入力:

CD/テーププレーヤー等からの信号ソースから

センター/サブウーファー:

センターおよびサブウーファースピーカー用

スピーカー出力:

外部スピーカー、イヤホン、アンプへ

サイドSUR:

サイドサラウンドスピーカー用

マイク入力:

マイクロホン用

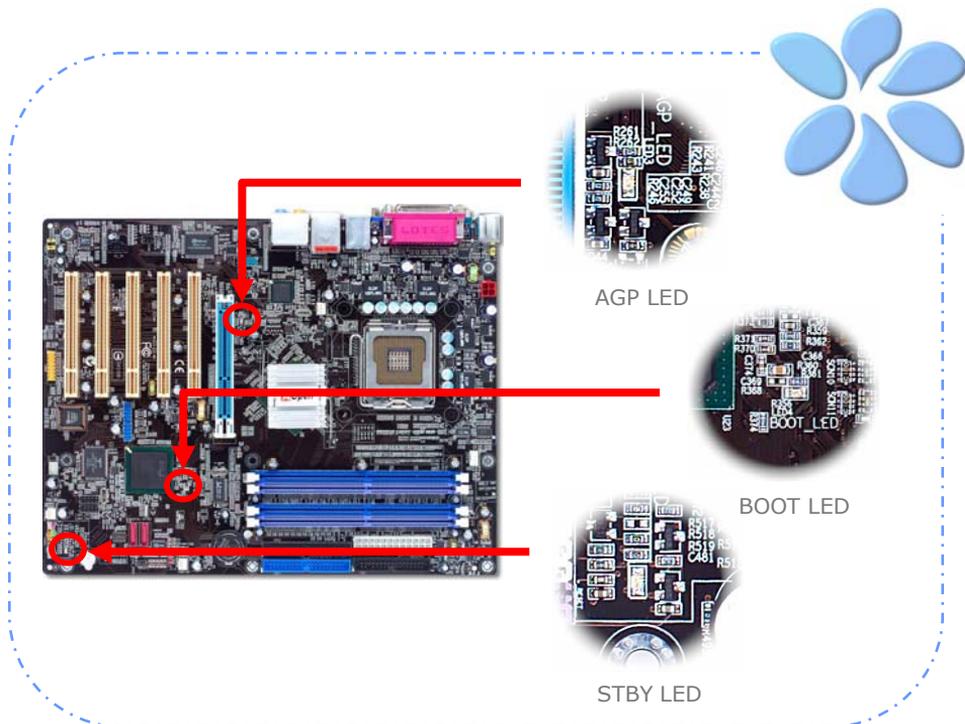
LED表示

スタンバイAGP LED、Boot LEDおよびスタンバイLEDといったLED表示は、ユーザーにシステム情報を親切に知らせる目的でAOpenが考案した親切設計です。

AGP LEDは、AGPカードの過剰電圧によるマザーボード損傷を防止するのが目的です。AGP保護機能導入により、マザーボードはAGPカード電圧を自動検知し、チップセットの焼損を防止します。ここで注意すべきこと点として、Intel 865G/865PE/848Pチップセットでサポートされていない3.3VのAGPカードをインストールすると、マザーボード上のAGP LEDが点灯して電圧過剰による損傷の危険性を知らせます。

BOOT LEDはシステムの電源が入り、システムがPOST (電源オン時の自己診断)中に点灯します。POSTがすべてのチェックを終え、システムが正常に起動すると、LEDは点灯し続けます。POST中にエラーが生じると、LEDは点滅し続けて以上を知らせます。

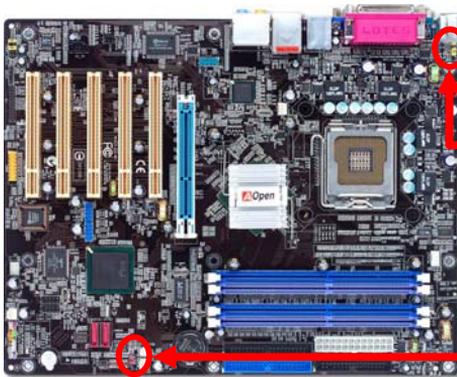
STBY LEDは、マザーボードに電力が供給されているときに点灯します。これは電源オン・オフ、スタンバイモードおよびサスペンドトゥーRAMモード中でのRAM電力状態など、システム電力状態をチェックするのに便利な機能です。



3.4 ジャンパ設定

JP28キーボード/マウス ウェイクアップジャンパ

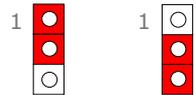
当マザーボードにはPS2キーボード/マウスウェイクアップ機能が装備されています。



オフ
(デフォルト)

オン

JP28キーボード/マウス
ウェイクアップジャンパ



正常時
(デフォルト)

CMOS
クリア時

JP14 CMOSクリアジャンパ

JP14 CMOSデータクリア

CMOSをクリアすると、システムをデフォルト設定値に戻せます。
以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクタPWR3からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタPWR3に挿します。

4章 特別な機能およびユーティリティ

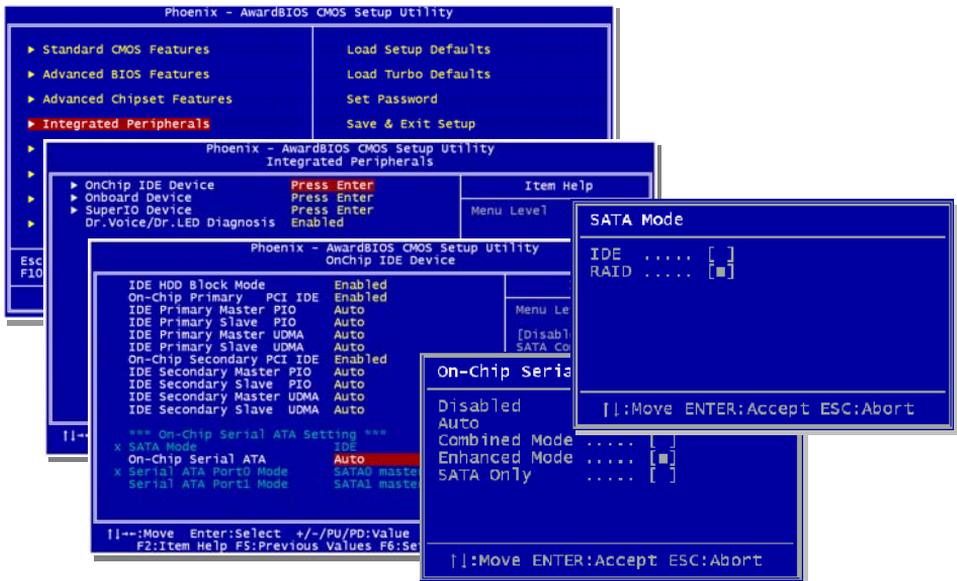
RAID (Redundant Array of Independent Disks)

オンボードでIntel ICH5Rを装備する865PEa-7ILFRでは、RAID 0およびRAID 1機能がサポートされています。RAIDに関する詳細は、下記の当社ウェブサイトをご参照ください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside/RAID.htm>

BIOSからのRAID機能有効化

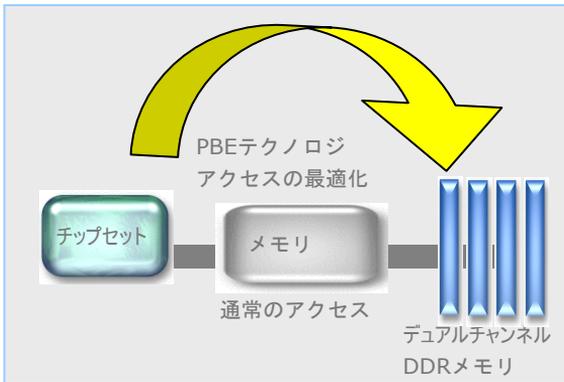
Serial ATAハードディスクを正しくインストールした後、BIOS設定画面から容易に調節できます。セットアップから“***Integrated Peripherals*** → ***OnChip IDE Device*** → ***On-Chip Serial ATA***” でEnhancedモードを選択します。Serial ATA機能を使用するには、SATAモードでRAIDを選択してください。これで設定を保存しBIOSセットアップを終了します。



 **警告:** Serial ATA RAID機能がサポートされるのは、Windows XPおよびWindows .Net環境です。

PBE - パフォーマンスブースティングエンジン

Intel 865PE/865Gチップセット設定の際、PBEテクノロジー(パフォーマンスブースティングエンジン)を使用することで、当マザーボードのパフォーマンスを向上させることができます。システムパフォーマンス向上用のPATと同様、PBEによってCPUとメモリ間でのアクセス速度および性能が最適化されます。理論上では、CPUはメモリへのアクセスの際に標準的なパスを経由する必要があります。しかし、最適されたパスを生成することでCPUはメモリへのより高速なアクセスが可能となります。よってPBEはCPUとメモリの距離を効果的に縮め、システムパフォーマンスの向上が実現されます。当機能を利用するには、BIOS画面からAdvanced Chipset Feature/Performance Boost Engineを選択してください。



注意: 当機能を有効にすると、RAMモジュールが最大限活用されますが、これはIntel 865PE/865Gチップセットの標準仕様ではありません。市場に回るRAMモジュールの品質が均一でないため、このような性能限界の使用法がシステムの不安定をもたらす可能性があります。当機能のご使用はユーザー各位のリスク責任の下でお願いします。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Advanced Chipset Features

DRAM Timing Selectable	By SPD	Item Help
× CAS Latency Time	2.5	
× Active to Precharge Delay	8	Menu Level
× DRAM RAS# to CAS#		
× DRAM RAS# Precharge		

機能のオン・オフ設定		
Performance Boost	Enabled	
Performance Boost Engine	Disabled	

PBE項目: オフ (デフォルト)		
Performance Boost Engine	Disabled	

Performance Boost Engine Disabled

Item Help: This item is used to cover additional performance by optimizing the path of CPU access so as to reduce latencies between 800MHz FSB and 400MHz CPU. Optimize all parameters of PBE technology and Squeeze a system for some speed. (with risk).

Item Help: The parameters of PBE Technology and Squeeze your system for extreme speed. (with risk).

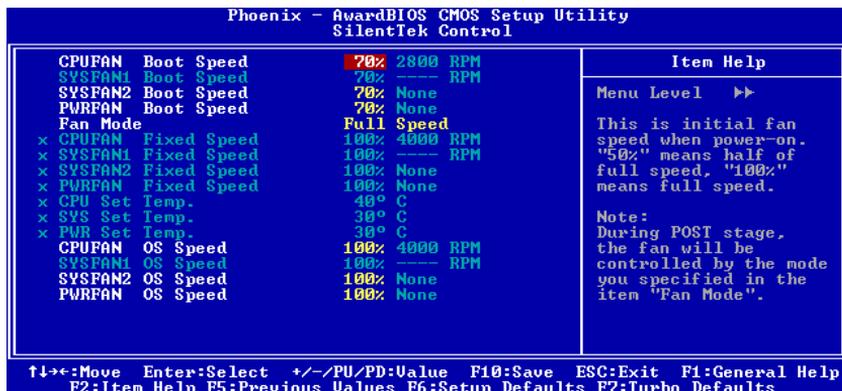
SilentTek - ノイズが消えた!



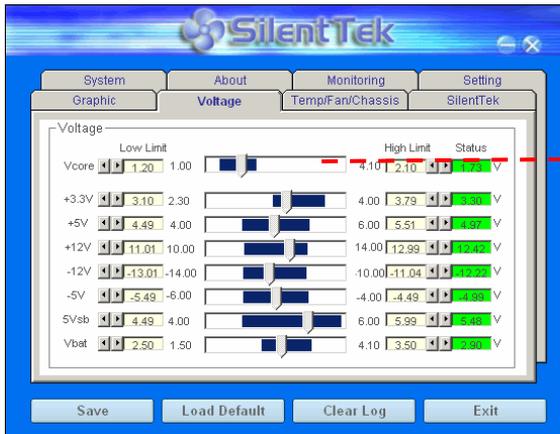
CPUクロックが飛躍的に上昇するにつれ、システム温度が高温になることが避けられなくなっています。そこでデリケートなシステムを守るためにマシン冷却効果を高めるよう、ファンを増設する努力が払われています。

一方、同時にユーザーの皆さんがこれらファンのノイズに悩まされることも事実です。実際には多くの場合設置されたファンを最高速で動作させることは不要です。反対に当社はファンの速度を的確に調整する方法を開発し、ノイズ低減のみならずシステム消費電力を最低限に抑えて、エネルギー資源の浪費を防いでいます。

この度AOpenマザーボードは新たなトータルソリューションであるSilentTekによりお持ちのシステムに静寂性を実現しました。ハードウェア回路、BIOSおよびWindowsユーティリティを併用することで、SilentTekは“ハードウェアステータスマニタ”、“過熱アラーム”および“ファン速度制御”の各機能をユーザーフレンドリーなインタフェースと共に提供し、ノイズ軽減、システムパフォーマンスおよび安定性を見事に調和させています。

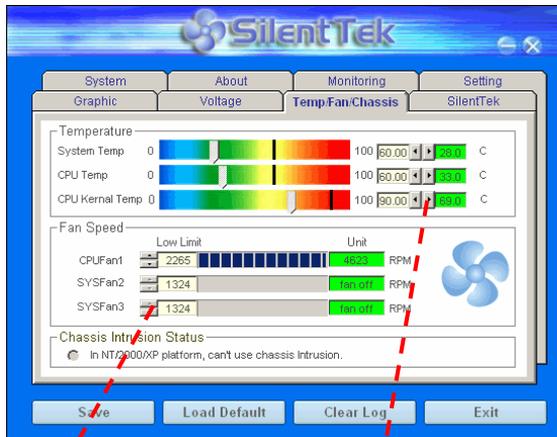


この最初の図は電圧状態表示ページです。ここで全ての電圧状態表示およびアラーム通知用の範囲設定が行えます。



ご使用のシステム電圧がこのバー表示によって確認できます。

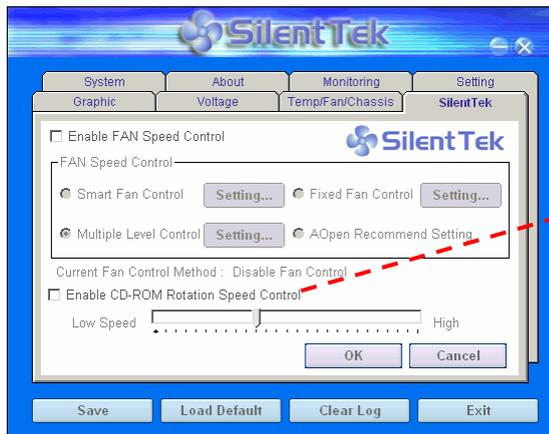
“温度/ファン/ケース”ページでは、現在のCPUおよびケース内部温度、さらにファンが正常動作しているかの確認ができます。



ここでは当然使用ファンの最低範囲設定を行えますが、ファンが規定速度よりも遅く回転している場合はSilentTekから警告メッセージがポップアップ表示されます。

ご使用のCPUおよびシステム温度を最大限にデフォルト設定もできますが、温度がこの範囲を超える場合はSilentTekから警告メッセージがポップアップ表示されます。

続くページが当ユーティリティの最重要な部分で、ページ内のオプションから特定のファンに対する回転速度を設定できます。設定内容は以下のとおりです。



CD-ROM回転速度制御：： CD-ROM 回転速度制御を有効にすると、ご使用のCD-ROMドライブの回転数を調節できます。速度を高速に設定すると、最高速度で動作し、低速に設定すると基本的な速度で動作します。

スマートファン制御：これがSilentTekユーティリティのデフォルト設定で、どのケースにも使用可能な一番設定しやすい機能です。これはAOpenにより開発されたアルゴリズムでファン速度をCPUおよび周囲温度の状況により自動調節するものです。使いやすくトラブルのない機能がユーザーのものとなります。

固定ファン制御：この設定では、インストールされた各ファンに対する特定の速度が指定できます。

マルチ制御：これはユーザーがファン回転速度から温度設定の詳細に到るまで自由に設定できる機能です。

AOpen推奨設定：これはAOpen製ケースに最適な設計です。ラボでの一連のテストにより実際に使用されるシナリオに従って各CPU動作状態と温度範囲での静音化を伴う最適ファン速度を割り出しました。CPUが全負荷状態でないときにはたいていの場合ファンは停止します。



参考：市場には何百ものブランドのファンがあるので、回転速度を設定した際にある程度の誤差が生じる可能性があります。これは基準判断中のものであり、ご使用のシステムに支障をきたすことはありません。



その他の便利な機能

AOpenの優秀なR&Dチームの開発能力により、当社製品には下記のような各種の強力で便利な機能が備わっています。これら機能についての詳細は下記ウェブサイトをご参照ください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



1MHz Stepping **AGP**



1MHz Stepping **CPU**

8x AGP8X

DDR400

Lite DieHard BIOS Lite

Dual Channel

EzClock

EzInstall

Gigabit LAN

Hyper-Threading

Speed PBE Technology

IEEE1394

RAID

Serial ATA

5章 BIOSの設定

紹介

システムパラメータの変更はBIOSセットアップメニューから行います。このメニューによりシステムパラメータを設定し、128バイトのCMOS領域 (通常、RTCチップの中か、またはメインチップセットの中)に保存できます。

マザーボード上のフラッシュROMにインストールされているPhoenix-Award BIOS™ は工場規格BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブや、シリアル・パラレルポートなどの標準的な装置の基本的な入出力機能を下層で管理する肝要なプログラムです。

当マザーボードのBIOS設定の大部分はAOpenのR&Dエンジニアリングチームによって最適化されています。しかし、システム全体に適合するよう、BIOSのデフォルト設定だけでチップセット機能を細部に至るまで調整するのは不可能です。それでこの章の以下の部分には、その他の設定方法が説明されています。

BIOSセットアップメニューを表示するには、POST (Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断) 実行中にキーを押してください。



メモ : BIOSコードはマザーボードの設計の中でも最も頻繁に変更が繰り返される部分なので、このマニュアルで説明されているBIOS情報は、お持ちのマザーボードに実装されているBIOSとは多少異なる場合があります。

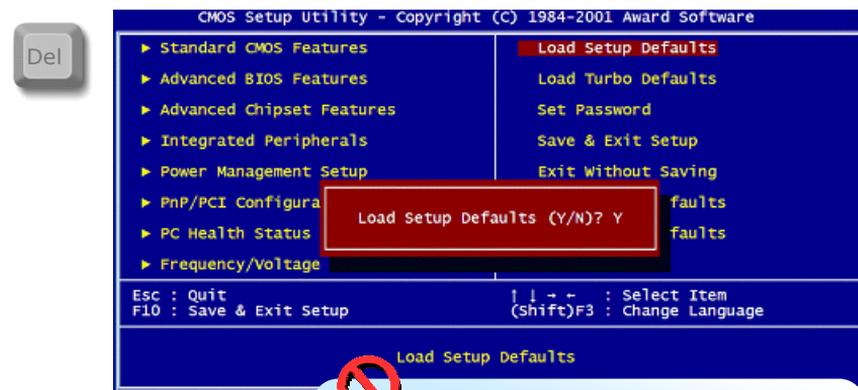
Phoenix-Award™ BIOSセットアッププログラムの使用方法

一般には、選択する項目を矢印キーでハイライト表示させ、<Enter>キーで選択、<Page Up>および<Page Down>キーで設定値を変更します。また<F1>キーでヘルプ表示、<Esc>キーでAward™ BIOSセットアッププログラムを終了できます。下表にはAward™ BIOSセットアッププログラム使用時のキーボード機能が説明されています。これに替わるものとして、AOpenからの最新のWinBIOSユーティリティをインストールされることを強くお勧めします。これにより、より詳細な説明、強力な機能やBIOSの詳細設定が可能となります。

キー	説明
Page Upまたは+	次の設定値に変更または設定値を増加させる
Page Downまたは-	前の設定値に変更または設定値を減少させる
Enter	項目の選択
Esc	メインメニュー内: 変更を保存せずに中止 サブメニュー内: サブメニューからメインメニューに戻る
↑	前の項目をハイライト表示する
↓	次の項目をハイライト表示する
←	メニュー内のハイライト部分を左に移動
→	メニュー内のハイライト部分を右に移動
F6	CMOSからフェイルセーフ設定値をロード
F7	CMOSからターボ設定値をロード
F10	変更を保存してセットアップを終了

BIOSセットアップの起動方法

ジャンプ設定およびケーブル接続が正しく行われたなら準備完了です。電源をオンにし、POST (Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断) 実行中にキーを押すと、BIOSセットアップに移行します。推奨される最適なパフォーマンスには"Load Setup Defaults (デフォルト値のロード)"を選びます。



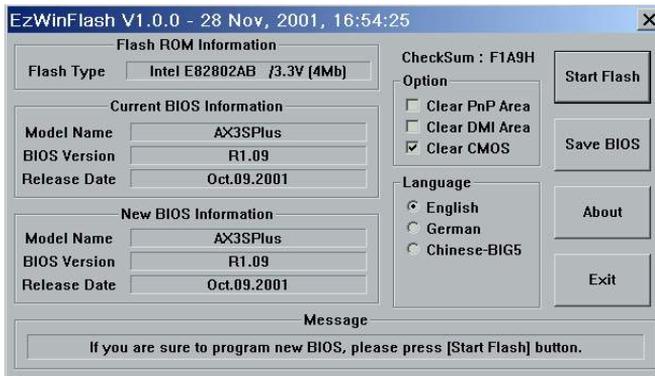
警告:ご使用のシステムコンポーネント (CPU, DRAM, HDD等)がターボ設定可能であることがはっきりしない場合は、“ターボデフォルト値のロード”は使用しないでください。

Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優秀な研究開発能力により、全く新たなBIOSフラッシュウィザード --- EzWinFlashが開発されました。ユーザー皆さんにわかりやすいよう、EzWinFlashはBIOSバイナリコードおよびフラッシュモジュールを統合しており、ウェブからダウンロードしたユーティリティをクリックするだけで残りのフラッシュ操作は自動処理されます。EzWinFlashはご使用のマザーボードおよびBIOSバージョンを検知し、システムに故障が生じるのを防止します。さらにEzWinFlashではご使用になるwindowsプラットフォームの全て、Windows 95/98, 98SE/ME, NT4.0/2000,さらにWindows XPを対象に考慮・設計されています。

同時に、よりユーザーフレンドリーな操作環境を実現するため、AOpen EzWinFlashはBIOS設定変更がより容易に行える多言語対応機能も備えています。



注意: マザーボードのフラッシュ操作をすることには、BIOSフラッシュエラーの可能性が伴うことをご了承ください。マザーボードが正常に安定動作しており、最新のBIOSバージョンで大きなバグフィックスがなされていない場合は、BIOSのアップデートは行わないようお勧めします。アップグレードを実行する際には、故障を防ぐためマザーボードモデルに適した正しいBIOSバージョンを必ずご確認の上使用するようにしてください。

メモ: BIOSの説明図での型式名は参考用です。お買上げのマザーボードと同一ではない可能性があります。



下記の手順でEzWinFlashによるBIOSアップグレードが可能ですが、アップグレードを始める前に全てのアプリケーションを終了させておくよう強くお勧めいたします。

AOpen の公式ウェブサイト(例: <http://www.aopen.co.jp/>)から最新のBIOSアップグレード zipファイルをダウンロードします。

ダウンロードされたBIOSパッケージ(例: WSGMAXII102.ZIP) をWindows環境ではWinZip (<http://www.winzip.com>) で解凍します。

解凍されたWSGMAXII102.EXEおよびWSGMAXII102.BINなどのファイルをフォルダに保存します。

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックすると、EzWinFlashはマザーボードのモデル名およびBIOSバージョンを自動検知します。BIOSが一致しない場合はフラッシュ操作には進めません。

メインメニューから使用言語を指定し、[フラッシュ開始]をクリックするとBIOSアップグレードが始まります。

EzWinFlashが残りのプロセスを自動処理したあと、ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するか聞いてきます。[再起動する]をクリックすると、Windowsが再起動されます。

POST実行中にキーを押してBIOSセットアップを起動します。"Load Setup Defaults"を選び、"Save & Exit Setup (保存して終了)"します。これでアップグレード完了です。

フラッシュ処理の際は表示がない限り、絶対に電源を切ったり他のアプリケーションを起動しないで下さい。



警告：フラッシュ時には以前のBIOS設定およびプラグアンドプレイ情報は完全に置き換えられます。システムが以前のように動作するには、BIOSの再設定が必要となります。

Vivid BIOSテクノロジー



皆さんはいつも変り映えしないPOST画面に飽きていませんか？ ではPOST画面は固定したものであるという考えを変えて、AOpenが新開発したVividBIOSによるカラフルで生き生きとしたPOST画面をお楽しみください。

初期のグラフィックPOST画面ではPOST中にスクリーン全部が使用され、テキスト情報がマスクされてしまいましたが、AOpen VividBIOSではグラフィックスとテキストは別々に扱われ、POST中に同時表示されます。この画期的な設計により、VividBIOSはPOST画面に表示される重要な情報を見逃すことなく色鮮やかな256カラースクリーンを表示します。

加えてBIOS ROMの限られたメモリ空間も解決しなければならない問題です。従来のBIOSがメモリを消費する非圧縮のビットマップイメージしか表示できなかったのに対し、AOpenはBIOSを次世代向けに巧みに調整してコンパクトなGIF形式さらにはGIFアニメーション表示も可能にしました。



Vivid BIOSの基本技術はOpen JukeBox CDプレーヤーと共通しており、このEzSkinユーティリティからご使用のVivid BIOS スクリーンの変更やお好きなOpen JukeBoxスキンのダウンロードが可能です。BIOSダウンロードページ



<http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm>の型式名の横に

の小さなロゴがあれば、そのマザーボードはこの画期的な機能をサポートしています。

6章 ドライバのインストール



ドライバおよびユーティリティのインストールは、「インストールウィザードを起動してステップ毎に操作」とお考えかもしれませんが、ところが、今回とっても“イージー”にEzInstallがこれらをこなしてしまうことに驚かれるでしょう。ウィザードやステップ毎の操作なしに、クリックひとつでインストールできてしまうのです。本当にクリックして完了、なのです。EzInstallによりインストールは簡単で、しかもエラーなしで行えます。

CDを入れると、AOpenのウェルカムページおよび当社情報が表示されます。

まず、左側のドライバのインストールアイコンをクリックして必要なドライバをインストールします。

次に、左側のユーティリティのインストールアイコンをクリックして必要なユーティリティをインストールします。

実質上はこれで完了です。ここで、CD内容の表示、Readmeファイル からより多くの情報を得ることもできますし、CDを終了を選んでインストールを終えることもできます。



6.1 ドライバのインストール

「ドライバのインストール」ページでは、EzInstallがご使用のマザーボードに必要なドライバをピックアップしています。ここで必要なのは“GO” ボタンを押すだけです。ドライバー一覧でグレーのチェックは必須のドライバで、チェックは外せません。赤いチェックはすぐにインストールしない場合はチェックを外せます。



アイコンをクリックすると、「ドライバのインストール」ページが表示されます。または“戻る”をクリックしてメインメニューに戻ることもできます。



“GO”をクリックすると、EzInstallはインストールを自動開始し、再起動のダイアログボックスが表示されます。(ドライバやユーティリティによっては再起動が不要なものもあります。)

6.2 ユーティリティのインストール

ユーティリティのインストールは、ドライバのインストール方法と同じです。AOpenはユーザーの皆様システム管理用の便利でパワフルなユーティリティを提供しています。この一覧からは便利なユーティリティがたくさん見つかります。必要なのは“GO”をクリックするだけです。これでユーティリティ類は面倒な手順なしですぐにインストールされます。



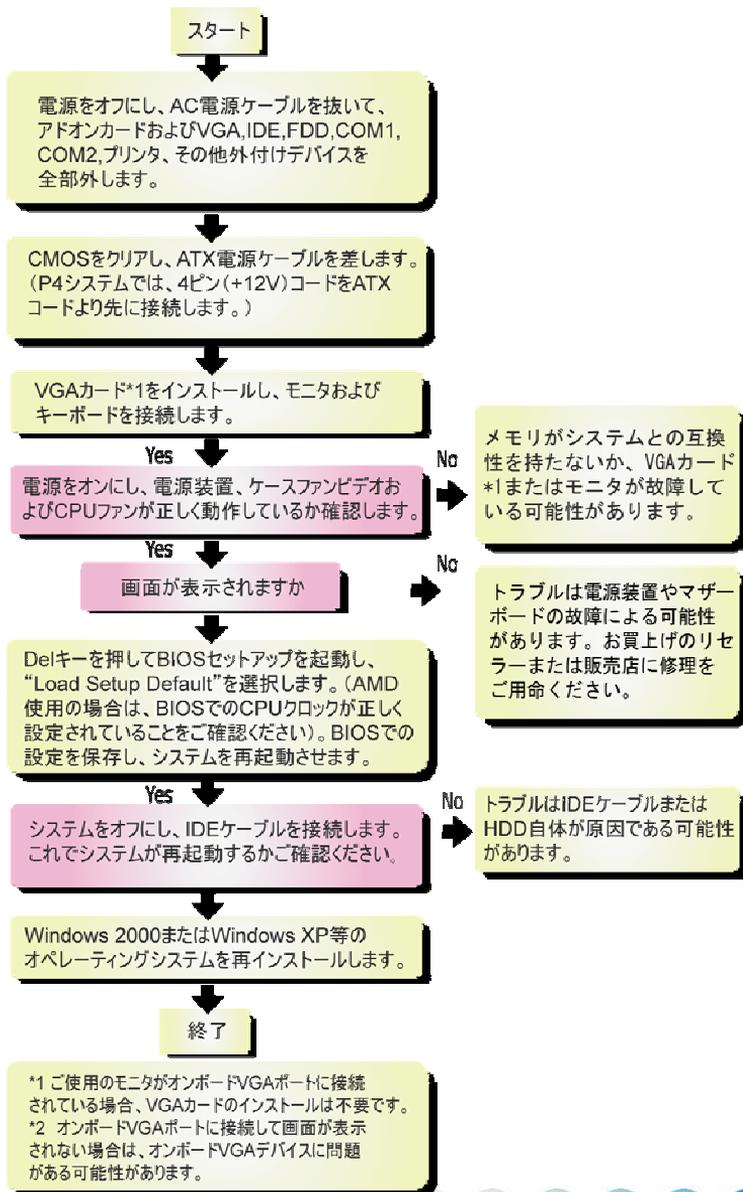
アイコンをクリックすると、“ユーティリティのインストール” ページが表示され選択可能となります。または“戻る”をクリックしてメインメニューに戻ることもできます。



7章 トラブルシューティング



TroubleShooting



8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ、

AOpen製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を
<http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpenのゴールドメンバーとなり、
以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様には質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。

ご協力に感謝いたします。

AOpenテクニカルサポートチーム

ヨーロッパ

AOpen Computer b.v.
Tel: 31-73-645-9516
Email: Support@AOpen.NL

中国

艾爾鵬國際貿易(上海)有限公司
Tel: 86-21-6225-8622
Fax: 86-21-6225-7926

米国

AOpen America Inc.
Tel: 1-510-489-8928
Fax: 1-510-489-1998

ドイツ

AOpen Computer GmbH.
Tel: 49-2131-1243-710
Fax: 49-2131-1243-999

日本

AOpen Japan Inc.
Tel: 048-290-1800
Fax: 048-290-1820

太平洋地区

AOpen Inc.
Tel: 886-2-3789-5888
Fax: 886-2-3789-5899

ヨーロッパ Eメール: Support@AOpen.NL

太平洋地区: <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国: <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ: <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

米国: <http://usa.aopen.com.tw/tech/default.htm>

日本: <http://aopen.jp/tech/index.html>

型式名およびBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンはシステム起動時の画面 (POST 画面)の左上に表示されます。以下が一例です。



i865PEa-7ILFRがマザーボードの型式名で、R1.02がBIOSバージョンです。

お買上げのマザーボードの登録

AOpen製品をお買上げいただき、ありがとうございます。お買上げのマザーボードは <http://club.aopen.com.tw/productreg/> からご登録いただきますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシニングームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。型式名、パーツ番号(P/N)、シリアル番号(S/N) およびお買上げ日。パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



P/N: 91.88110.201はパーツ番号で、S/N: 91949378KN73はシリアル番号です。

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ

エラー音	メッセージ
1回短く (・)	システムのブートが正常
2回短く (・・)	BIOS設定エラー
1回長く - 1回短く (-・)	メモリエラー
1回長く - 2回短く (-・・)	AGPエラー (VGAカードかモニターの接続エラー)
1回長く - 3回短く (-・・・)	VGAカードエラー (オンボードVGA利用時はメモリエラー含む)
長いエラー音が継続 (-----)	メモリエラー (メモリが正しく装着されていない、正しく認識していない)



Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログオンに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイージーインストールガイドはAOpenボーナスパックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://aopen.jp/tech/report/index.htm>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ（よく尋ねられる質問）が列挙されています。ログオンに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てください。

<http://aopen.jp/tech/faq/index.htm>

ソフトウェアのダウンロード：ログオンして必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログオンしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。